「日本医科大学基礎科学紀要」第40号の発刊によせて

日本医科大学 学長
田尻　孝

1980年に最初に発刊された「日本医科大学基礎科学紀要」は約30年を経てこのたび第40号を迎える運びとなりました。先日その第1号を拝見いたしましたが、発刊への寄稿文を書かれた当時の木村榮一学長、髙橋末雄理事長や、論文を書かれた先生方のお名前を見て非常に懐かしく感じました。と同時に基礎科学の先生方が、この30年間に質の高い研究を継続し報告し続けてきたことに対して頭が下がる思いで一杯となりました。創刊号での木村先生の言葉に「当大学の基礎科学には活気に溢れた秀れた人々が少なくない。そういう人々が次から次へと寄稿を続け、尻切れとんぼにならないようにすることを期待する。」とありました。これは単科の医科大学における基礎科学の先生方の苦労を理解はするが、本学の先生方にはそのハンデをはね返し教育者のみならず研究者としても高いレベルを維持して欲しいという木村先生の期待とエールを込めた言葉であったと思います。そして先生方は見事にそれに答えて本学の発展に多大な寄与をされてきたわけであり、これは並大抵の努力では出来なかったことだと感じました。

創刊当時の30年前に比較すると社会の状況はかなり様変わりしました。とくにドラスティックに変わったのはインターネットに代表される情報の発信・伝達の手段です。基礎科学の先生方はこれを利用した新しい試みを模索しているとお聞きし、大変楽しみにしております。また別の変化として最近感じるのは、それが利益になるかどうかという価値基準で物事を判断する風潮が社会の中にあることです。大学生も同様で、就職に有利な、資格が取れる科目を好んで選択し、一般教養に関しては興味を持たない者も多いと聞きます。しかし将来医師になるべき医学部の学生はそれではいけません。良医になるためには医学以外の知識や患者さんを思いやる心など、いわゆる人間力が必要です。一見医学には関係なさそうな学問も医師として活躍していく上での重要な支えになります。これを彼らに理解させ充実した教育を行うことが重要です。

これまで通りの質の高い教育・研究を維持するとともに、時代の変化に即した新しい試みを展開して、医科大学における基礎科学教育とはこういうものなのだ、と内外に示していくことを本学の基礎科学の先生方に期待いたします。